

地域の防火・防災だより

青葉

AOBA

全体屋内消火栓操法競技大会の実施について

セントラル警備保障株式会社 仙台支社 業務課 課長 清澤 利安

CSP セントラル警備保障（以下、CSP）は、警備員としての基本動作及び警備先における、消火器、消火栓による初期消火要領並びに応急救護要領の錬度向上を図ることを目的に、1986年5月8日に「第1回全体屋内消火栓操法競技大会」を開催し、2018年10月13日の開催で第32回目を迎えました。第32回大会はCSP及びCSPグループ会社含め、全24チーム（A・Bの2グループに分けて競う）が日頃の訓練成果を披露しました。

第32回全体屋内消火栓操法競技大会は、「屋内消火栓操法」と「応急救護」競技に大きく分かれ、はじめに大地震により、事務所内にて火災が発生し、自動火災報知設備が作動。消火器による初期消火を試みるも消火不能により、屋内消火栓を活用し鎮火。その後、傷病者が発生し、応急救護（胸骨圧迫・AED操作）にあたるという想定で行われました。

なお、審査は国土舘大学の教官が審査官を務め、下記の審査基準に則り厳正に審査されました。

－屋内消火栓操法－

- ・正確性、迅速性を重視する。
- ・指揮者、1番員、2番員の各動作に対して、3名の審査官が定められた審査表により減点法で審査を行う。併せて審査長による総合審査の得点とする。
- ・操作の基準時間は、「只今から消火栓操法を開始

する。目標、前方の火点、操作～始め」の号令から標的が倒れるまでを25秒とし、1秒を超過するごとにそれぞれ0.5点を減点する。但し、豪雨になった場合は以後の実施チームの基準時間超過による減点を無くすこととする。また、25秒より1秒早くなるごとにそれぞれ0.5点を加点する。

- ・審査対象動作は入場から退場、解散まで全ての動作とする。

－応急救護－

- ・指揮者、1番員、2番員の各動作に対して、3名の審査官が定められた審査表により減点法で審査を行い、3名の審査員の平均点を各チームの得点とする。

近年では、女子隊の活躍が目立っており、第32回大会もBグループで東京事業部女子隊が2位に大差をつけて優勝しました。

当社のお客様でも、先日2件の火災発生事案がありました。119番通報、初期消火、避難誘導などで迅速且つ適切な対応をしたことにより、所轄消防署をはじめ、お客様からも大変高い評価をいただきました。CSPグループでは、これからも防火防災等の各種訓練を通じて、サービス品質の向上を追求してまいります。

第32回全体屋内消火栓操法競技大会



整列完了



火災確認



消火完了



応急救護